

スポーツイベントにおける沿道観戦者における観戦動機

-トライアスロン大会の事例-

谷口 健吾 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)

指導教員 吉倉 秀和

キーワード: スポーツ観戦動機, トライアスロン, 集合離散

1. 緒言

トライアスロンはスイム・バイク・ランの3種類の競技を行える競技で健康志向(フィットネス)や環境志向(アウトドアスポーツ)などの生涯スポーツとして認知され始めている。

そこで本研究では、なぜ沿道観戦の特徴に表れる同時体験的に競技を観戦することができない観戦行動に対して何故観戦者が観戦するかを調査することを明らかにする。

2. 研究方法

【調査方法】

大会当日試合を観戦している観戦者に質問紙によるアンケートを配布し、その場で回収した(回収数147部)

【調査時期】

2014年9月7日, 9月21日, 9月28日に開催されたJTU主催大会

【調査項目】

基本属性8種類, 先行研究(水上ほか2006)をもとに観戦動機に関する質問項目21項目を設定し5段階尺度で回答を得た

【分析方法】

基本属性において単純集計を用い, 観戦動機に関する21項目については探索的因子分析(主因子法, プロマックス回転)を

行い命名し, 抽出された5因子をもとに多変量分散分析を行った

3. 結果と考察

分析結果として選手に対する感情移入要素に男女別で有意差は見られなかったが, 年代別では若年層が感情移入要素や試合の影響力が高い数値を示した。

表1 統計結果(年代別)

	若年層(A)		中年層(B)		高年層(C)		F値	多重比較
	平均値	S.D.	平均値	S.D.	平均値	S.D.		
Energy	4.47	.620	4.17	.673	4.11	.773	1.39	A>B B<C C<A
Game Effect	3.93	.907	3.67	.900	3.78	.779	.796	A>B B<C C<A
Support	3.59	1.41	3.65	1.08	3.43	1.38	.376	A<B B<C C<A
Family	2.79	1.36	3.78	1.18	3.26	1.22	6.16	A>B* B>C* C>A*
Skill	2.47	1.17	2.49	1.08	3.00	.992	2.90	A<B B<C* C>A*

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

注: Willksのラムダ=.81, F(242)=.2.66, p=0.5

また, スポーツ観戦の有無で各因子を比べると経験有の方がトライアスロンを娯楽としてではなく, 競技に期待をして観戦に繋がっていることが分かる。また, 年代別に分けてみると中年層・高年層がスポーツ観戦を通して家族交流を1つの目的にしている人が多いことになる。

4. 引用参考文献

水上博司ほか(2006) 駅伝競走大会の沿道観戦者の観戦行動に関する研究 陸上競技研究, 66(3), 17-26